

# 大型事業浪費止まらぬ

## 千葉県議会が閉会

千葉県議会は二十六日閉会し、予算案など八十三議案が可決されました。十二月県議会から継続の指定管理者指定に関する七議案は否決されました。日本共産党の三輪田美真議が討論に立ちました。

みわ議員は二〇〇九年度一般会計予算について「知事選を控えての骨格予算だから六百億円を超える事業を計上留保したといいながら、財源手当は事実上何も示されていない」と無責任ぶりを指摘。二つの県立高等技術専門学校廃止、職業訓練予算減額、市町村国保への県単補助金廃止の継続、定時制・通信制高校の修学奨励費廃止など雇用や社会保障、教育が削られる一方で、八ッ場ダム建設、外環道路、北千葉道路など不要・不急の大型公共事業の浪費が止まっていないことを指摘し、反対しました。一般会計予算は自民、民主、公明が賛成しました。

県が三つの県立病院について受け皿ができたなら廃止することを公然と打ち出したことに「地域医療からの撤退は許されない。地域住民の医療充実の責任を果たすべきだ」と主張し、病院事業特別会計に反対しました。

## 定額給付金撤回 意見書に賛成

### 千葉、岡田県議討論

二月定例千葉県議会最終日の二十六日、日本共産党の岡田幸子県議は「定額給付金の撤回を求める意見書」の賛成討論をしました。

岡田県議は「国民の七割が反対し、生活支援にも景気対策にも役に立たない。ネットカフェ難民や路上生活者など最も支援が必要な生活困窮者がもらえない事態が発生しかねない」と批判。「欠陥だらけのバラマキに二兆円つぎ

込み、事務経費に八百二十五億円もかけるのは無駄遣いだ」としました。

政府・与党が定額給付金強行の一方で消費税増税を打ち出していることについて岡田県議は、「総理が唱えている税率10%にすれば毎年国民一人あたり十万円の新たな負担を背負わされる」と批判し、それをたった一回の給付金でこまかそうとするのはとんでもないと主張しました。意見書は自民、公明が反対、否決しました。